

# ひょうごの遺跡

平成7年10月11日発行  
兵庫県教育委員会  
埋蔵文化財調査事務所  
神戸市兵庫区荒田町2-1-5  
☎652 TEL078-531-7011  
FAX078-531-7014

## 古墳から短甲が出土

三木市 年ノ神6号墳

日本道路公団が建設中の、山陽自動車道の三木・小野I.C予定地で、『<sup>としのかみこふんぐん</sup>年ノ神古墳群』の発掘調査を行っていたところ、『6号墳』から銅鏡や玉類とともに、古墳時代の甲冑の一種である<sup>かつちゆう</sup>短甲（よろい）<sup>たんこう</sup>（よろい）が出土しました。

古墳時代の甲冑は武具であるとともに、権力の象徴でもありました。中央政権の配下になったしとして、高度な制作技術を必要とした甲冑などが、各地の豪族に配布されたものと考えられています。

5世紀になると国内や国外の情勢が変化し、古墳の副葬品も、それまでの権力の象徴とされた鏡などの祭祀的な遺物から、武力を誇示する甲冑などの武具に変化しています。

今回、短甲が出土したことは、この地域にも畿内を中心とした中央政権の支配下に入り、その勢力を背景にした豪族がいたことを示すとともに、祭祀的な力を誇示した時代から、武力を誇示する時代に入ったことを示しています。たった1領の短甲の出土ですが、この古墳に埋葬された人物や古墳時代の社会を復元する上で貴重な資料となり、多くのことを語りかけてくれます。



短甲出土状態



## 短甲

短甲は「みじかよろい」とも言い、腰から肩までを覆う古墳時代の甲の1種です。胃、頸甲、肩甲、草摺、籠手、臍当とともに攻撃から身を守る防具として使用されていました。この年ノ神6号墳からは短甲の他に頸甲、肩甲が出土しています。

短甲は体に合わせ、鉄板で骨組みを作り、骨組みの間を三角形や長方形の鉄板を何枚もつなぎ合わせて作られます。鉄板のつなぎ合わせには、鉄の鉾や草紐が用いられ、鉾でつなぎ合わせたものを「鉾留式」、草紐でつないだものを「草綴式」と呼んでいます。これまでの研究で甲冑は5世紀（古墳時代中期）に入って盛んに作られ始め、当初は草綴式が主流でしたが、5世紀の中頃になると鉾留式が多くなることがわかっています。

今回出土した短甲は、三角形の板で骨組みの間を埋め、草紐でつなぎ合わせたもので、「三角板草綴短甲」と呼ばれているものです。



年ノ神6号墳全景

主体部の全景  
(西から)

短甲を身に着けた武人の想像図

## 県内の出土例

兵庫県にはたくさんの古墳がありますが、甲は数多い古墳の中でもわずか25基の古墳から30領の出土が確認されているだけで、ごく限られた古墳だけに副葬されたものであることがわかります。しかも、その中には実物が現存しない例もあり、確実な例はさらに少なくなります。

甲が出土した古墳を地域別にみると、淡路では例がなく、但馬で2例、摂津が1例のみで、丹波・播磨に集中していることがわかります。播磨の中でも加古川から市川の中・下流域に集中しており、「年ノ神6号墳」も、この地域の中にあります。

甲の出土した古墳のうちでも、その多くは新しいタイプの鉾留式短甲の出土で、草綴式短甲の出土はこれまでに2例しかありません。この2例はいずれも、各地域を代表するような古墳からの出土です。年ノ神6号墳のように、小さな古墳から出土したのは初めてのことです。

また草綴式短甲のうち、今回の三角板草綴式の短甲は、県内で初めての出土です。

※7頁「兵庫県内甲冑出土古墳一覧表」参照



## 年ノ神6号墳

兵庫県のはば中央部に位置する三木市の西北端、小野市との市境となる丘陵上に、年ノ神古墳群があります。この丘陵の頂上からは三木市街と、加古川の支流である美嚢川が一望できます。天気の良い日には遠く淡路島も望めます。この付近には、他にも多くの古墳が築かれ、さながら古墳時代の集団墓地の様相を呈しています。

年ノ神6号墳は、この古墳群の西端、尾根の稜線を横断する浅い溝によって区画された中にあります。東西約13.3m、南北約9.5m、高さ約0.9mの東西に長い方形の古墳です。

古墳は、墳丘中央部に穴を掘り、そこに木棺を直接埋めるという埋葬方法が採られています（“木棺直葬”といいます）。遺体はすでに消滅していましたが、副葬品の位置から、頭を東にして埋葬されたものと推定されます。木棺も腐食し、残存していませんでしたが、土の色や硬さの違いを頼りに掘り下げると、鉄器をはじめとする多くの副葬品が、埋葬当

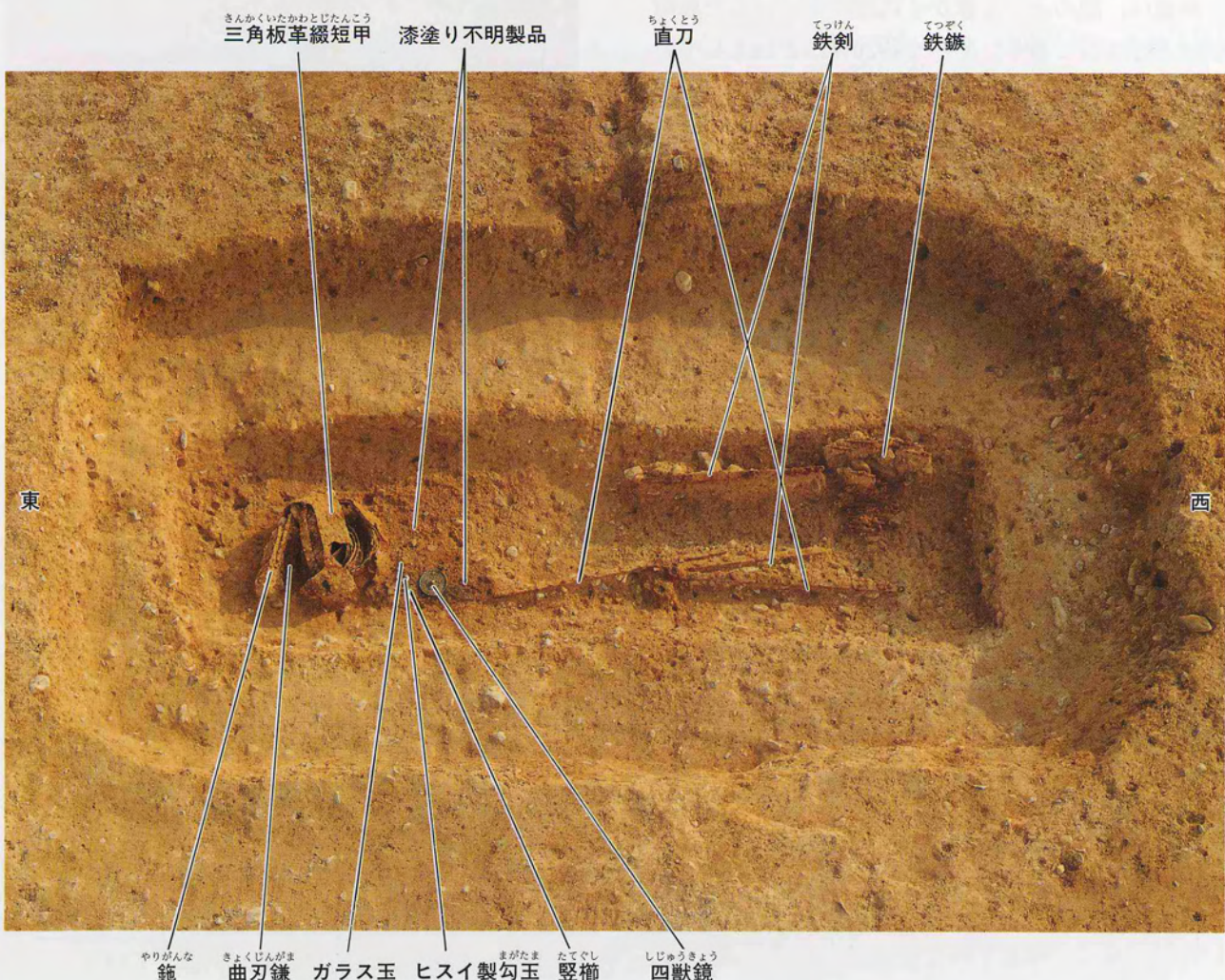
時の状態のまま現れ始めました。

棺の内部には、被葬者の頭付近に青いガラス玉が約250点、ヒスイ製の勾玉1点、銅鏡1面、豎櫛3点がありました。頭の上にあたる場所には短甲1領が鉤2点、曲刃鎌1点と一緒に置かれていました。胴から足元にかけての両側には直刀2本、劔1本、鉄鍬1本が置かれていました。また、棺内の各所に漆製品の痕跡が残っていました。

棺の外側にも、鉄劔1本と鉄鍬56本が置かれていました。これらは棺の南側に置かれていたようですが、棺が腐食した時に、棺の中に落ち込んだようで、棺の中の副葬品に重なるような状態で出土しました。棺の上にも鉄斧2点と鋤先1点が置かれていました。

また、古墳を区画する溝からは、渡来人が作った可能性の高い土器（韓式系土器）が出土しています。

以上、短甲を始めとする副葬品などの遺物から、年ノ神6号墳は、5世紀中頃に造られた古墳であると言えます。







被葬者の頭のまわりには重要な遺物が置かれています。

銅鏡は、龍のような獣が4匹描かれているため四獣鏡と呼ばれており、県内で約20枚ほど出土しています。一般的に、時代が新しくなるにつれ、獣は退化して、イモ虫のような姿になります。この鏡はまだ明らかに龍の姿を留めており、四獣鏡の中でも比較的古い時期のものと思われます。

鏡の左にある半円状のものが豎櫛です。まわりに散らばるガラス玉・勾玉は、首飾りとして1本の紐で結ばれていたのでしょう。櫛や首飾りは女性を想像させる副葬品ですが、当時は男性もこれらを身につけていたようです。鏡の下黒いものは、漆皮膜が残存したものと思われます。



棺上に副葬された遺物で、左がU字形鋤先、右が鉄斧です。このような農工具も、よく古墳に副葬されています。



鏡の背面写真で、実物の約1/2の大きさです。下方に白い固まりが見えますが、これは当時の繊維が残存したものです。

## 調査風景



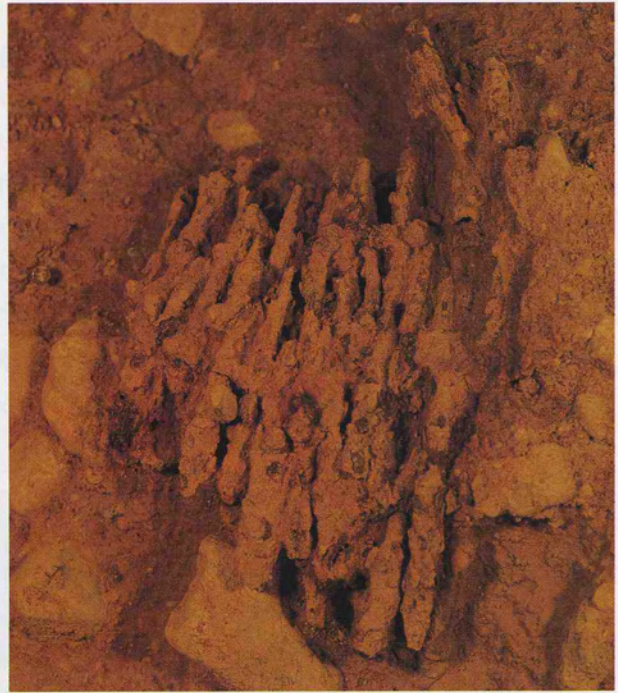
棺内部からは小さな遺物がたくさん出土したため、竹グシや筆などを用い慎重に調査しました。また、どんな小さな遺物も見逃さないように、土を掃除機で吸い取り、現場事務所に持ち帰り、ふるいにかかけました。





頭付近（東）から足元（西）方向を見たものです。

被葬者の北側には直刀2本、劔1本が置かれています。南側の劔1本は棺外に副葬されたものが落ち込んだものです。刀劔は、戦闘に用いられる外にも、儀礼に用いることもありました。古墳に副葬されるのは、埋葬者の愛用の品であったとともに、死後、悪霊が入り込むのを防ぐ意味もあったのでしょう。



鉄鏃はサビの固まりのようになって、1本1本分離させることができないものもありましたが、合計56本が副葬されていました。鉄鏃は刃先をすべて足元に向けられていました。

また、矢柄<sup>やがら</sup>は腐ってしまい、残存していませんが、鏃にその痕跡がはっきりと残っています。

鉄鏃は、身を守る甲冑に対して攻撃用の武器で、甲冑等が進化し防御力が増すのに伴って、鉄鏃はその貫通力を増すように工夫され、形も大型のものから、鋭く尖った実用的なものに変化しています。したがって、その形から、鉄鏃が作られたおおよその時期を知ることができるのです。

## 保存処理

保存処理は、出土した金属製品や木製品を、長期間保存できる状態にするために行うものです。

「年ノ神6号墳」からは、短甲・鉄劔・鉄鏃・鏡など、さまざまな金属製品が出土しました。これらは、サビに覆われたり破損したりしているため、現在、泥やサビを落とし乾燥させています。内部の水分がなくなった後は、合成樹脂を浸透させ、長期間保存できる状態にしていく予定です。

したがって、実物をお見せすることは当分の間できませんが、短甲を復元した際には、その他の副葬品とともに、皆さんに公開する機会をつくりますので、その時までお待ちください。





年ノ神6号墳と短甲について色々とお話してきましたが、どのような点が注目に値するのでしょうか。

西暦478年、倭王武<sup>わおうぶ</sup>が中国に送った上表文に、「昔より祖禰<sup>そでいみ</sup>躬<sup>みづから</sup>甲冑<sup>かちゅう</sup>を撰<sup>つらぬ</sup>き、山川<sup>さんせん</sup>を跋涉<sup>ばつしやう</sup>し寧<sup>ねい</sup>処<sup>しよ</sup>に遑<sup>いとま</sup>あらず。」という記述があります。この文から古墳時代中期にあたる5世紀代において、中央政權が武力により国内の統一を押し進めていったことがうかがえます。また、この時期は中国・朝鮮半島の政治的緊張が高まった時期でもあり、日本もその緊張下に置かれていました。短甲を含む古墳時代の甲冑は国内の国家統一の過程を示すだけでなく、当時の国際状況を知ることができる資料でもあるのです。

三木市周辺は、当時の畿内周辺部にあたり、美囊川沿いには播磨内陸部から摂津に至る主要街道が通っていたことから、早い時期に中央政權の影響下におかれていたものと推定されます。奈良時代の地誌『播磨国風土記』にも、5世紀ごろの三木市周辺と当時の政權の関わりをうかがわせる記述がみられます。おそらく年ノ神6号墳に埋葬された人物は、中央政權から短甲を与えられ、権力を承認されて美囊川流域を支配していた豪族だったのでしょう。



東側上空から見た年ノ神6号墳周辺

(★ 年ノ神6号墳 ①年ノ神古墳群〔古墳時代中期～終末期〕、②年ノ神遺跡、③貝谷遺跡)

### ここだけの遺物のお話

#### 韓式系土器

古墳時代の中ごろ朝鮮半島から、土器、鍛冶、織物など、最新のさまざまな技術を持った人々が渡ってきて、のぼり窯で硬く青味を帯びた灰色の土器を焼く技術が伝わり、須恵器という土器が作られるようになりました。

年ノ神6号墳を区画する溝から出土した土器は、普通の古墳から出土する須恵器とは違った特徴を持っています。

この時代の西日本の各地の遺跡では、当時朝鮮半島で使われていたのと全く同じか、もしくはよく似た土器が見つかることがあります。故郷の地で使っていた土器を持ってきたものもあれば、日本に来て作った土器もあるようです。こうした土器を韓式系土器と呼んでいます。



年ノ神6号墳から出土した韓式系土器



## 兵庫県内甲冑出土古墳一覧表

No.	古 墳 名	所 在 地	甲 冑 型 式		甲冑付属具
			冑 (かぶと)	甲 (よろい)	
①	年ノ神6号墳	三木市鳥町		三角板革綴短甲1	頸甲・肩甲
②	下石野1号墳	三木市下石野	型式不明	型式不明	
③	小野王塚古墳	小野市王子町	小札鋳留眉庇付冑1	長方板革綴短甲1 三角板鋳留短甲1	肩甲
④	亀山古墳第1主体	加西市笹倉町	横矧板鋳留眉庇付冑1	横矧板鋳留短甲1	草摺・籠手
	亀山古墳第2主体			横矧板鋳留短甲1	
⑤	地藏堂古墳	加西市玉丘町		三角板鋳留短甲1	
⑥	池尻2号墳	加古川市平荘町	横矧板鋳留衝角付冑1	三角板鋳留短甲1	
⑦	カンス塚古墳	加古川市平荘町		横矧板鋳留短甲1	頸甲・草摺
⑧	経塚山古墳	高砂市阿弥陀町	型式不明	型式不明	
⑨	壇場山古墳	姫路市御国野町	型式不明	型式不明	
⑩	奥山大塚古墳	姫路市奥山	小札鋳留眉庇付冑1	三角板鋳留短甲1	
⑪	兼田3号墳	姫路市兼田	(鋳留)		頸甲・肩甲
⑫	宮山古墳第1主体	姫路市四郷町		挂甲(小札)	
	宮山古墳第2主体			挂甲(小札)	頸甲・肩甲 篠籠手・臍当
	宮山古墳第3主体		横矧板鋳留衝角付冑1	三角板鋳留短甲1	頸甲・肩甲
⑬	人見塚古墳	姫路市白国	型式不明	挂甲?	
⑭	法花堂2号墳	神崎郡香寺町	小札鋳留衝角付冑1	三角板鋳留短甲1	頸甲・肩甲 草摺?
⑮	綾部山14号墳	揖保郡御津町		型式不明	
⑯	狐塚古墳	相生市陸本町		挂甲	
⑰	相生市那波所在古墳	相生市那波	型式不明	型式不明	
⑱	奥山1号墳	赤穂市有年		横矧板鋳留短甲1	
⑲	西野山3号墳	赤穂郡上郡町		植物繊維製	
⑳	安黒御山5号墳	宍粟郡一宮町		横矧板鋳留短甲1	
㉑	雲部車塚古墳	多紀郡篠山町	小札鋳留衝角付冑1 三角板鋳留衝角付冑1 小札鋳留眉庇付冑1	横矧板革綴短甲1 横矧板鋳留短甲1	
㉒	新宮古墳	多紀郡篠山町	型式不明	型式不明	
㉓	峠尻2号墳	多紀郡丹南町	型式不明(金銅装)		
㉔	親王塚古墳?	氷上郡氷上町		型式不明	
㉕	小山1号墳	城崎郡日高町		三角板鋳留短甲1	
㉖	小見塚古墳	城崎郡城崎町		型式不明	
㉗	十善寺古墳	神戸市灘区高羽	型式不明	型式不明	

は播磨
  は丹波
  は但馬
  は摂津

(注) 1. 古墳名の?は他の古墳から出土した可能性があるもの。

2. 甲冑型式・甲冑付属具の?は型式等が不明確なもの。

3. この表は、次の資料を参考に作成した。

・黒田恭正 『第33回埋蔵文化財研究集会 甲冑出土にみる武器・武具の変遷』「兵庫県」1993 埋蔵文化財研究会  
 ・兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 『年ノ神6号墳現地説明会資料』1994



# 平成6年度に行った主な発掘調査

No.	遺跡名	所在地	遺跡の種類	事業名
①	袴狭遺跡他	出石郡出石町	古墳～平安時代の集落	小野川河川改修
②	七日市遺跡	氷上郡春日町	旧石器、弥生時代集落跡	北近畿豊岡自動車道建設
③	太市中古墳群	姫路市太市中	古墳群	一般国道29号(姫路西バイパス)建設
④	亀田遺跡	揖保郡太子町	弥生～中世の集落跡	
⑤	八多中遺跡	神戸市北区八町	中世の集落跡	
⑥	貝谷遺跡他	三木市鳥町	弥生時代の墳墓他	
⑦	中谷1号窯跡	加古川市志方町	奈良～平安時代の窯跡	山陽自動車道建設
⑧	大釜瓦窯跡	姫路市飾東町	江戸時代の瓦窯跡	
⑨	大亀谷山古墳	加古川市平荘町	古墳	
⑩	上脇遺跡	神戸市西区伊川谷町	古墳～中世の集落跡	一般国道2号(神戸西バイパス)建設
⑪	長坂遺跡	神戸市西区伊川谷町	室町時代の鋳造跡	
⑫	丸山遺跡	津名郡淡路町	縄文時代の集落跡	一般国道28号改良(岩屋改良)
⑬	二郎宮ノ前遺跡	神戸市北区有野町	古墳～中世の集落跡	神戸電鉄公園都市線留置施設設置
⑭	清水遺跡	龍野市揖西町	弥生～中世の集落跡	県道桑原・北山・揖保川線整備
⑮	堀山遺跡	加西市網引町	縄文、古墳時代の墳墓	加西網引産業団地造成
⑯	神出古窯跡群	神戸市西区神出町	平安時代の窯跡	神出浄水場施設拡張
⑰	三原遺跡	氷上郡柏原町	奈良時代の集落跡、古墳	県立丹波の森公苑建設
⑱	屋敷町遺跡	三田市屋敷町	中世の集落跡	県営三田大池住宅建設

## 支援職員(第2陣)の受入れ

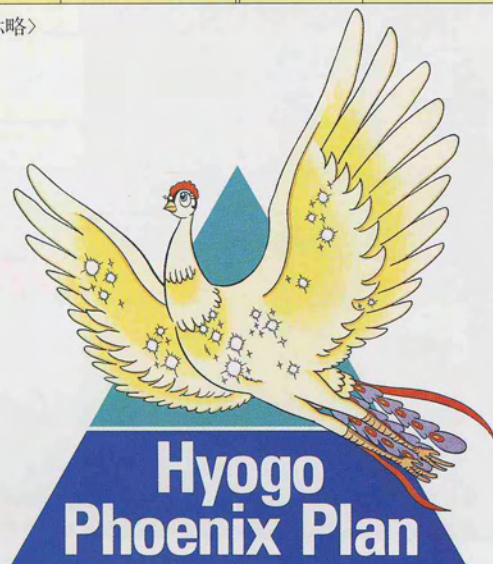
10月1日、阪神・淡路大震災復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査支援の第2陣として、全国10県から派遣された10名の専門職員をお迎えしました。

派遣元の各県に厚くお礼を申し上げます。

10名の方々のご健勝とご活躍をお祈りします。

県名	氏名	県名	氏名
宮城	斎藤 吉弘	広島	沖 憲明
埼玉	佐藤 康二	島根	目次 謙一
愛知	佐藤 公保	山口	谷口 哲一
岐阜	小野木 学	長崎	村川 逸朗
福井	河村 健史	鹿児島	立神 次郎

〈敬称略〉



発掘調査を行った遺跡の位置



※番号は表に対応しています

## 《編集後記》

一日でも早くお知らせしようと思いながら、震災の影響で発行が延びのびになっていた、年ノ神6号墳特集号を発行することができ、編集担当者としてこの上ない喜びを感じています。  
◇甲冑は難解な専門用語が多いため、できる限りわかりやすく説明したつもりですが、いかがでしたでしょうか。ご意見をお聞かせください。  
◇次号からは、発掘調査の最新情報をお伝えできるよう、引き続き頑張ります。